

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700
国立療養所 奄美和光園
電話 (0997) 52-6311

平成27年9月1日
(2015)

第98号



■表紙.....	1	■全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会.....	8
■北大島レクリエーションに参加して.....	2	■ふれあい看護体験.....	9
■園外レクリエーション(笠利・用岬).....	2	■初めての舟漕ぎ出場.....	10~11
■園外ショッピングレクリエーション.....	3	■23回目の夏祭り.....	12~13
■園外レクリエーション(加計呂麻島)に参加して.....	4	■七夕の短冊に願いを込めて.....	14
■「ハンセン病問題を正しく理解する週間」パネル展.....	5	■スイカ割り・新人紹介.....	15
■園内ミニ運動会開催.....	6~7	■人事異動・和光園日誌・編集後記.....	16

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



土浜海岸(平成27年4月)

基本方針

1. 入所者個々に応じた医療・福祉を目指します
2. 快適な生活環境と療養生活の充実を目指します
3. 地域との交流を図りハンセン病の啓発活動に努めます
4. 職員の教育・研鑽に努めます

北大島レクリエーションに参加して

4月22日今年度第1回目の園外レクリエーションに入所者6名職員7名と一緒に参加させていただきました。この日の二日前には奄美地方では非常に激しい雨が降り、徳之島では50年に一度の記録的な大雨に見舞われ天候が心配されたのですが、当日は天候に恵まれ、大勢のスタッフに見送られ午前9時出発しました。途中昼食のお弁当を購入し、大熊から秋名経由、バスの中では世間話を楽しみながら、たくさんの山百合が咲いているのを横目に目的地の土浜海岸へ向かいました。11時に到着、昼食をいただきました。

購入したお弁当以外にも入所者の方の



手作りの差し入れもたくさんあり箸が休む事はありませんでした(笑)。その後は各々貝採りに行ったり、昼寝や散策散歩をしたりと潮風と波の音を満喫しました。



15時には土浜海岸を後にしカラオケしながら恒例の大熊漁港に寄りお刺身を買って園に戻りました。ハプニング等なく経過し入所者の方々も終始笑顔で過ごされており、今後もできる限り楽しい時間を提供したいと思い、とても充実した一日でした。

ゆらいの郷 大山 志津香

園外レクリエーション (笠利・用岬)

5月20日(水)のバスレクリエーションには、5名の入所者の方と職員7名が参加しました。

和光園を9:00に出発し、赤尾木→喜瀬→手花部→屋仁→佐仁を通して用岬へ到着しました。

この日は風がとても強く、何名かはバスから降りてテーブルの前に座ったものの、あまりの風の激しさに急遽、宇宿漁港へ場所を変更しました。

早速昼食の準備を始めて参加者全員で

楽しく食事をしました。

食後、皆様それぞれ車椅子で散歩したり、景色を眺めたり、のんびりした時間を過ごされていました。

バスの中ではカラオケを楽しみながら、和光園の帰路につきました。

入所者の方々の楽しそうな姿をみられた一日でした。

福祉室 押川 英子

園外ショッピングレクリエーション (ドラッグストア モリ 和光店)

初夏の日差しに汗ばむ6月11日(木)、先日オープンしたドラッグストアモリ和光店へ入所者3名とショッピングに出かけました。

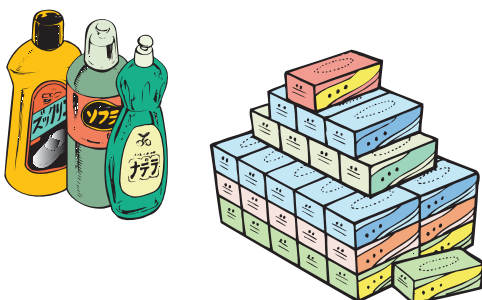
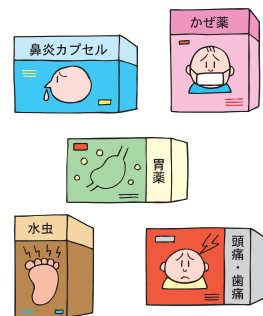
入所者3名共、前日からとても楽しみにされていた様で、早々と身支度を整え、バスに乗り込みました。職員に見送られながら笑顔で出発すると、3分程で店に到着し、近くから見る建物の大きさに入所者、職員共に驚きの表情でした。待ちきれない様子でワクワクしながら、バスを降りて入店するとピカピカに光る広いフロアと陳列された商品の多さに圧倒され、入所者からは、「広すぎる!!」と驚きの声が聞かれました。

広すぎるフロアに少々戸惑いながらも、まずはズラリと並んだ商品を一通り見て

回りました。品数の多さに目移りしていましたが生活必需品を始め、お菓子やジュース等を眺めながら気に入った商品をカゴいっぱいになる程購入し、満足されていた様子でした。皆様からは満面の笑みで、帰り際に「近いので、ぜひまた来たい」との声が聞かれました。皆様の満足のいくショッピングとなり良かったです。

今後もサービス委員とレクリエーション係が協力し、入所者の皆様が楽しめるレクリエーションを提供して行きたいと思います。

ゆらいの郷 作下 志信



園外レクリエーション(加計呂麻島)に参加して

6月17日(水)に加計呂麻島へのレクリエーションが行われました。

入所者6名と職員10名が参加し、午前7時30分に和光園を出発し、加計呂麻島へ向けてバスを走らせました。

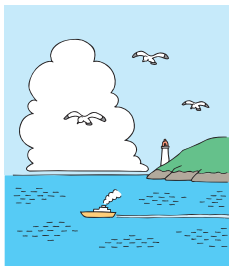
住用のマングローブ園にて15分程休憩をとり、再び出発。午前10時頃に古仁屋に到着し、10時40分には加計呂麻島瀬相に到着しました。デIGO並木に



行きましたが残念ながら花は咲いておらず皆さんがっかり。気を取り直して諸鈍に向かい、楽しい昼食をとりました。

天気も良く、碧い海を目の前にして皆さん会話がはずみ笑顔の絶えない楽しい昼食となりました。

13時15分発のフェリーにて加計呂麻島を後にして、和光園に帰ったのは17時頃でした。入所者の皆様にとって、外出する事がとても楽しみにされているのに気づかされたレクリエーションでした。



福祉室 有馬 孝



「ハンセン病問題を正しく理解する週間」パネル展

県では、奄美市との共催により、「ハンセン病問題を正しく理解する週間」（6月21日～27日）に合わせて、奄美市役所と県立奄美図書館においてパネル展を行いました。

ハンセン病問題の歴史について解説したパネルや当時の写真のほか、奄美和光園の協力を得て、敬老祝賀会などの行事や「ふれあい和光塾」での野菜づくりを通じた交流の様子など、現在の療養所の写真パネルを展示しました。

会場に来場された方から、「ハンセン病について広く知ってもらいたい機会だと思った。多くの皆さんに知っていただ

きたい。」「このような取組が継続されるようにお願いしたい。」などの感想が寄せられました。

御協力をいただいた奄美和光園の皆様には深く感謝いたします。

まだまだ残暑が続いておりますので、入所者の皆様もくれぐれも御自愛ください。

鹿児島県保健福祉部 健康増進課

森木 由美子





園内ミニ運動会 開催



6月25日(木) 午前11時より不自由者棟「あすなろホール」で、入所者、職員、保育園児、保母さん、奄美看護福祉専門学校(アミカヌフシツ)の学生さんの参加のもと、ミニ運動会を開催いたしました。

運動会は青空の下での開催との思いもありましたが、梅雨の季節、台風の接近、晴天時は想像以上の炎天下、開催場所を決めるのに悪戦苦闘でした。今回、ミニ運動会を開催することになりましたのも、年間を通しての季節ごとの行事の一つとして入所者の皆様と職員と一緒に笑い、喜び、楽しみを感じて頂けるようにと医療サービス向上委員会、看護サービス委

員会での幾度の話し合いを持ち今回、計画させていただきました。

当日のミニ運動会は、加納園長の開会の挨拶、保育園児によるかわいい選手宣誓で幕開けいたしました。準備体操は奄美の方言でのラジオ体操を取り入れ意味不明の言葉に首をかしげ笑いあり。あめパンマン競争(飴食い・パン食い競争)は園児と保護者で参加。親子で一緒にスタートし吊るされたパンを必死に食べる姿や、手でパンを取ったままゴールとは反対方向に走っていく園児の姿に微笑ましい笑顔と拍手あり。また、看護学生と教員が司会の一声で急遽参加。職員とともに真っ白になった顔に大きな拍手と声援がありました。鈴割りは赤組と白組に分かれ、なかなか割れなくて必死の姿でした。

「ひまばんみしょーれ」みんなと一緒に食べるお弁当は最高!後半の幕開けには応援団によるダンスは、馬場先生を先頭に吉原総看護師長、後藤副総看護師長も参加。サービス





委員との組体操（扇）の幕開けに会場がさらに盛り上がりました。宝釣りゲームは、車いすに乗って誘導された職員、入所者、看護学科の教員が宝を目指してやっと釣れた宝に会場内が大盛り上がり。風船割りは、入所者が積極的に加納園長、面高師長と抱き合ったりと、普段見られない大きな笑顔もみられました。後半のプログラムも元気いっぱいの司会でスムーズに進行しました。各賞の発表としてそれぞれの部署に『頑張った賞』『ハッスル賞』『ユーモア賞』の景品授与があり、保育園児にもアンパンマンメダルが授与されました。

最後に和光園歌を全員で合唱したあと、島のブルースの曲に合わせて皆で円になって踊り、馬場先生の閉会の挨拶で幕を閉じました。11時から14時まで短い時間ではありましたが入所者より「楽しかった」「保育園の子供たちが可愛かった」「みんなと一緒に食べるお弁当は美味しかった」と言葉を頂きました。入所者、保育園児、職員が一緒に過ごせた時間は何にも代えがたい、とても楽しいひと時を過ごすことができ最高の思い出になりました。何より入所者の笑顔に感無量！でした。



加納園長が「一つひとつの行事が入所者にとっては大切な出来事になっていることを考えると可能な限り開催にこぎ着ける努力をしたいと考えています。季節の催事や園外へのレクリエーション、職員全員で活動を応援したいものです。入所者一人一人の生きがいを高める要因を探し当て、健康を維持し良好な人間関係が保てるよう全力を挙げて取り組んで欲しいと思います。」と言われたように、入所者が元気に充実した日々を過ごせるように今後も行事などに企画参加して精一杯取り組んでいきたいと思っています。

ゆらいの郷サービス委員

金井 瞳
作下 志信
元久 明子



全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会



去る7月8日と9日の両日、奄美市において全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会が開催され、その一貫として和光園では、献花式が行われました。

この協議会は、北は青森から南は沖縄までハンセン病施設を有する12の市町が、それぞれ毎年持ち回りで各自治体の首長、議会代表者40名余りが参加し、ハンセン病施設の現状の問題点や将来について討議し、毎年の決議として国会及び国に要望を提出しています。

今回は「奄美市」としては初の担当（前に名瀬市として2回担当。ちなみに前回は平成14年に開催）でした。

もともと26年度に開催予定が台風のため中止となり、奄美市の希望で今年度開催となりました。がしかし、またもや台風接近のため当初のスケジュールの変更を余儀なくされました。和光園でも当初は、献花式のほか入所者の方との懇談会・施設見学を予定していましたが、献花式のみとなりました。

次回、奄美市での開催は、平成39年・・・12年後です。

事務長補佐 広瀬 晃





7月30日(木)に「ふれあい看護体験」
として県立大島高校12名の学生さんが
来園されました。女子学生は、真っ白な
白衣とナースキャップを身にまとい嬉し
はずかしそう。男子学生2名は、初めて
の白衣姿に照れながらその仕草はとても
凛々しく感じられました。

学生達は、和光園の紹介やオリエンテ
ーションを終えた後、病棟とゆらいの郷
に分かれ約1時間様々な体験を行いました。
病棟では血圧測定や車椅子移動を、



ゆらいの郷では入所者とふれあい、カラ
オケレクリエーションと一緒に参加しま
した。また、ソフト食や栄養ゼリーの試
食会も行いました。少しずつ学生らの緊

張がほぐれ、入所者と触れ合うその顔は、
生き生きとした明るい笑顔にあふれてい
ました。

最後の意見交換会では、「入所者と職
員の間にとてもよい繋がりがあると感じ
た。」「ここで入所者の方からお話が聞け
てよかった。」「将来、やっぱり看護・介
護の道を目指しがんばりたい。」等の感
想が聞かれました。正味3時間の短い時
間でしたが、学生達にとって今の自分、
そして将来の自分を見つめ直す貴重な時
間を過ごせたことと思います。ご協力い
ただきました入所者および職員の皆様あ
りがとうございました。

実習指導者研究会 窪田 マキ



初めての 舟漕ぎ出場



今回、奄美の夏の風物詩である舟漕ぎに初めて参加させていただきました。高校まで島で生活していましたが、舟漕ぎの経験は一度もなかったものでこんなに過酷なものか全く想像もしていませんでした。1か月前から練習を行って、私は途中から参加させていただきました。勤務終了後に大熊漁港に集まって、1時間余り練習を行い、職員の皆さんとの交流にもなり、とても充実した時間を過ごすことができました。漕ぎ方もわからない私に、先輩方が指導してくださり、徐々に漕げるようになるとだんだんと楽しくなりました。しかしながら持久力がなく、途中から手に力が入らないほど大変なものでした。先輩方は声を出しながら頑張っていました。私は声を出す余裕もないほどだったので、「さすがだなあ」と感心しました。また差し入れを持ってきてくださったり、お茶を飲んだりして練習後の楽しみも半分ぐらいありました。筋肉痛の心配もしていましたが、筋肉痛に

なることなく本番を迎えました。

和光園は男子2チーム、女子2チームが出場することになり、私は『和光園女子A』チームで出場しました。舟漕ぎ当日は晴天に恵まれ、朝から男子の舟漕ぎが始まりました。職員で分担して野菜の煮物やタコ味噌、小豆粥、から揚げ、漬物、冷やしソーメン、手作りケーキなどを持ち寄り、応援をしました。



和光園のテントは海側ではなかったですが、男子のチームが始まると、海側のテントの方まで行って入所者の方と一緒に

応援しました。大健闘しましたが、筋肉モリモリの男性チームには敵わず、2チームともに敗北してしまいました。そのあとは入所者の方と職員と一緒に話をしながら、持ち寄ったものを食べたり飲んだりと出陣する前に満足していました。女子の出番になり、総看護師長率いる『和光園女子B』チームは見事予選を勝ち抜きました。プレッシャーのかかる中、Aチームの出番が来ましたが、3位になり予選を上がることができませんでした。緊張に加え、いつも練習していた舟と違っていたので、足が何回か滑ってしまいなかなかうまく漕げず後悔が残りましたが、また来年頑張ろうと思いました。Bチームの準決勝は惜しくも敗退してしまいましたが、応援したり、懇談したりと職員や入所者の方と結団することができ

たのでよかったです。私はその夜の打ち上げに参加することができませんでした。が、来年はぜひ祝勝会に参加したいと思います。

ゆらいの郷 緒方 亜紀





23回目の夏祭り



今年は無事に夏祭りを開催できました。去年、台風の影響で中止を余儀なくされました。今年こそはと思っている中、台風が発生し予想では奄美地方へ接近する!？、多少の雨は降ったものの、予想は外れてくれました。

連日の猛暑にも見舞われ、園全体で汗だくになりながら準備を進めました。当日はボランティアで奄美看護福祉専門学校生の協力もありました。

開会の加納園長の挨拶では、「今日は入所者が少しでも元気になって、無事に秋を迎えてほしい」、「地域の中での奄美和光園はこういう所だと見ていってほしい」と熱く語られました。

来賓の挨拶は、日頃よりお世話になっている行政機関、組織、診療援助の医療機関、周辺町内会等の方々、出席の21団体を代表して、朝山奄美市長より言葉をいただきました。

待ちに待った余興がスタート。流暢な島口で黒木・柴のご両人。

当園保育園の園児たちの歌声に顔もほころびます。練習の成果が発揮できたかなあ？奄美高校郷土芸能部8名、明るく楽しくさすが全国レベルの腕前、講堂の全員の心を鷲掴みにして、アンコールまで飛び出しました。民謡日本一の楠田莉

子さん、聞き応えのある染みる唄声でした。

直前の雨で出足は悪かったものの、どんどん人の数は多くなるばかり。日も暮れかかり、外の夜店は大盛況。ポテト、パイナップル、焼き鳥、焼きそば、かき氷、ビール・焼酎、ジュース、綿菓子など、みるみるなくなっていくます。

入所者のカラオケでは、日頃の練習のお陰で、お二人ともに熱唱されていました。職員による余興では、大爆笑の中にも哑然とする人もいたりして、楽しいダンスパフォーマンスがありました。

最後は、朝仁八月踊り保存会のみなさんによる六調です。入所者も職員も講堂全体が一体となり、心躍らせ音に合わせて体が動きます。三味線とチヂンと唄でいやが応にも盛り上がっていき、祭りの終演を迎えました。

外出などの機会が減るなか、地域の方々とふれ合う中で、入所者に季節の移り変わりを肌で感じてもらえれば幸いです。暑い夏のひとときを笑顔で楽しく過ごせたのではないかと思います。来月の敬老祝賀会も一人でも多くの入所者の方々に参加してほしいです。

薬剤科長 橋本 雅司





七夕の 短冊に 願いを込めて



8月20日（旧暦の7月7日）木曜日に3本の七夕が揺れる中、高倉公園にて入所者18名、職員41名で「七夕会」を楽しみました。

朝からパラパラと雨が降り始め、少し心配しましたが、夕方になると晴れ間も見えて思わず「ほっ」と胸をなでおろしました。竹を使ったそうめん流しや、入所者の方からの美味しい差し入れ、看護課各部署から「おでん、卵焼き、ゼリー、ぜんざい、ふくらかん」など料理が満載で、どのテーブルも見ただけでお腹がいっぱいになりました。短い時間でしたが夕暮れ時の涼感をかみしめながら入所者、職員が一緒になってテーブルを囲み、楽しいひとときを過ごす事が出来ました。風に揺れる七夕の短冊に、入所者の皆様

が「いつまでもお元気で楽しい日々が送れますように」と願いを込めて。

治療棟サービス委員

安田 けい子・朝野 寿枝



スイカ 割り



6月初旬、今年も入所者の方から保育園に大きなスイカをもらいました。早速、みんなでスイカ割りをしました。



「Tじい、どうもありがとう」みんなで美味しくいただきました。



あまみ保育園 園長
広瀬 晃

新人紹介

作業療法士 中川 恭兵（なかがわ きょうへい）

皆様、初めまして。今年の8月より作業療法士として採用されました中川恭兵です。奄美大島には初めて足を踏み入れたのですが、陽射しの強さと海の綺麗さに驚きと感動でした。私は熊本県出身なのですが、熊本にはこんなに綺麗な海はなかったので、最近では子供とよく海に行き、遊んでいます。またこれからの奄美での新たな出会いと出来事を楽しみに日々生活しています。

作業療法士としての経験としては、介護老人保健施設・病院を経て6年目となります。まだまだ未熟者ではございますが、入所者の皆様の生活がより良くなるよう努力を惜しまない所存です。どうぞよろしくお願いします。



人事異動

(平成27年 5 月 1 日 ～ 平成27年 8 月 31 日)

H27. 6. 1	有働 尚子	内科医長	昇任
	馬場 まゆみ	皮膚科医長	昇任
H27. 7. 4	山口 千春	看護師	育児休業
H27. 8. 1	中川 恭兵	作業療法士	採用
	俵 あい	看護師	復職
	井上 清仁	福祉係長	配置換
H27. 8. 25	下川 満	看護助手 (期間業務職員)	育児休業

和光園日誌

(平成27年 5 月 1 日 ～ 平成27年 8 月 31 日)

H27. 5. 20	入所者園外レクリエーション (笠利町・用岬)
5. 20	面縄小学校 施設訪問
5. 28	喜界中学校 施設訪問
5. 29	法務局 施設訪問
6. 17	入所者園外レクリエーション (南大島・加計呂麻島)
6. 17	職員健康診断 (6/17、6/18、6/24)
6. 17	一般入院 66才女性
6. 23	真宗大谷派僧侶 施設訪問
6. 25	園内ミニ運動会
6. 28	奄美オーケストラ演奏会 (あすなろホール)
7. 8	全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会に伴う献花式
7. 8	一般入院 61才女性
7. 21	一般入院 62才男性
7. 23	一般入院 89才男性
7. 31	朝日小学校・屋仁小学校職員等 施設訪問
7. 31	奄美まつりに伴う花火大会入所者観覧
8. 1	辞令交付 (作業療法士外)
8. 1	奄美まつりに伴う舟こぎ大会入所者観覧
8. 6	第23回和光園夏祭り
8. 20	七夕会 (高倉)
8. 20	笠利小学校職員 施設訪問
8. 21	市(いち)小学校職員 施設訪問
8. 22	有屋町内会節踊り (ゆらいの郷玄関前)
8. 26	入所者死亡 57才男性 (35名→34名)
8. 27	龍瀬小学校職員 施設訪問
8. 31	一般入院 79才女性

編集後記

した後は残ったチームの応援に回っていました。

雲一つないと言っていいほどの炎天下。ジリジリと刺すような真夏の日差し。チームの応援をする一方で、日焼け対策を怠ったがゆえに肌も順調に焼き上がり…見るも無惨な赤色に染まっていました。1ヶ月経った今もまだその名残が(泣)。

9月になったとはいえ、奄美はまだ秋になる気配がありません。日焼け対策は皆さん言わずもがなされているでしょうが、暑さ対策も忘れずに行って残りの夏を乗り切りましょう。

編集委員 米丸 淳一